

マスメディアを活用した普及啓発（新聞特集記事）【山口県】

（実施主体）山口県

（基金事業メニュー）普及啓発事業

（実施期間）平成 23 年度

（実績額）平成 23 年度 7,121 千円

【事業の背景・必要性・目的】

警察庁のデータ（※1）では、自殺の原因・動機が明らかなもののうち、最も多いのが「健康問題」であり、中でもうつ病が最も多く約 44.4%（15,802 人）を占める。一方、アルコール依存症は約 2.1%（327 人）にとどまっている。

しかし、自殺の背景にはうつ病以外の精神疾患が隠れていることも多く、アルコール依存症もその一つである。実際、救急施設に運ばれた自殺企図者に対する調査（※2）によると、自殺企図者の 75%に精神障害が認められ、そのうち約 46%がうつ病で、約 18%がアルコール・薬物依存症等というデータもある。

国の自殺総合対策大綱や自殺対策白書においても、うつ病以外の精神疾患等によるハイリスク者対策の推進が謳われていることから、一般県民を対象として、アルコールとうつ、自殺の関係についての普及啓発を図ることとした。

※1 「平成 22 年中における自殺の概要資料」（警察庁）

※2 「自殺の危険因子としての精神障害 - 生命的危険性の高い企図手段をもちいた自殺失敗者の診断学的検討-飛鳥井望」

【事業の内容】

3 月の自殺対策強化月間に合わせて、新聞広告（全面）を掲載。詳細は以下のとおり。

〔掲載日〕平成 24 年 3 月 3 日（土）

〔掲載先〕県内版朝刊 3 紙

〔内 容〕アルコール依存症やうつ病、自殺の関係について、以下 4 名の精神科医からのコメントを掲載。

- ・ 山口大学医学部精神科神経科 教授 渡辺義文
- ・ アルコール依存症治療専門病院 高嶺病院 院長 橋本 隆
- ・ 成増厚生病院（東京都） 診療部長 後藤 恵
- ・ 山口県精神保健福祉センター 所長 河野通英

テーマは、「アルコール依存症と自殺～大量飲酒は睡眠を妨げ、うつ病や自殺に至ることも～」。アルコール依存症やうつ病への気づきを促し、専門機関への早期受診や相談を呼び掛ける。

【事業実施に当たっての運営体制等】

企画・運営は、精神保健福祉センターで行い、コメントについては各執筆者に直接依頼。

〔事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点〕

新聞広告には自殺対策フォーラム（例年3月開催）の告知も掲載。掲載日から1週間後の開催で、テーマを「お酒と心の健康を考える～不眠・うつ病・飲酒運転・自殺を予防するために～」とし、新聞特集記事とタイアップした企画となった。コメントの執筆者の一人は講演のメイン講師である後藤恵氏。

掲載後、一般県民よりアルコール問題について反応があった。また、フォーラムの様子は、当日の夕方のニュースで放送されるなど一定のパブリシティ効果もあった。

(問合せ先) 山口県精神保健福祉センター

TEL:0835-27-3480

E-mail: a15201@pref.yamaguchi.lg.jp

URL: http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/mhc/index.html